



第15号

学校だより

# けやき

平成30年3月23日  
宇都宮市立上河内中学校  
発行責任者 校長 西原 良一



## 今日は、平成29年度の修了式の日です

一応、3月31日までは平成29年度ですが、4月からの1年間は、今日で終わります。

何度か皆さんには「節目」、「節目」で自ら振り返ることの大切さを話してきましたが、今日はその「節目」の中でも、1年間を締めくくる、ひときは大きな節目の日になります。

私個人としては、それまで縁もゆかりもなかった上河内中学校に勤めることとなり、校長という立場で皆さんと1年間を共にしてきたわけですが、いろいろなことがあり、何とも目まぐるしい1年間でした。36年もの長い教員生活で初めて経験することもたくさんあって、新鮮な驚きと感動と時に疑問や迷いを感じたりもしました。

皆さんにとっては、この1年間はどのような1年だったでしょうか？

さて、この1年を振り返ることも含めて、明日からの春休みになるわけですが、この休み中にぜひ、実行してほしいことを修了式で話しますが、ここではその内容を改めて書いておきます。



その1) この1年間を振り返って、自分なりに自己評価をしてみましょう。

学校生活については、学習・生活・部活動等、できるだけ項目に分けて「良かった点」・「改善の余地があった点」などを考え、できるなら「A」・「B」・「C」、難しければ「○」・「×」でもかまわないので、それを紙に書き出してみましょう。同じように、学校以外の自分についても評価してみてください。

その2) 自己評価と「通知票」の評価（他者の自分に対する評価）を比較してみましょう。

自己分析がしっかりできている（自分のことが分かっている）のか、或いは、自分に甘い（自分のことがよく分かっていない）のかを見極めてください。先生たちは、よく皆さんのことを見ています。もちろん完璧ではないかもしれませんが、少なくとも客観的に皆さんを評価し、それが成績や所見として通知票に記されています。自分の現状を他者はどう見ているのか、自分はどう見られているのかを知っておきましょう。

その3) 振り返ったら、前進するために30年度の目標を立てましょう。

過去を変えることはできません。しかし、過去を教訓にして未来を変えることは誰でもができることです。その可能性は、皆さんに平等に与えられています。だからこそ、前進するための目標（目印）をしっかり考えること、実行するためにそれを明確にしておくことが重要になります。



時は立ち止まって、待っていてはくれません。「あとで」、「そのうち」なんて甘ったれた考えは捨て、必ずこの休み中に実践してください。

# いい卒業式ができました お疲れさまでした



第53回 上河内中学校卒業式が、盛大かつ厳粛に3月12日（月）に行われました。

今回から卒業証書をフロアで受け取るやり方を変え、卒業生が壇上で受け取るようにしました。その関係もあり、保護者の方が卒業生を間近で見ることができるよう座席の配置も変更し、壇上にカメラを設置して授与の映像を流すなどの試みも行いました。

今までのやり方とは違うことで、どうなることかと不安もありましたが、戸惑いや違和感があったこととは思いますが、おおむね好評だったようです。

また、多くのご来賓の方々から「いい卒業式でした」、「卒業生はもちろん在校生もとても立派な態度でしたね」とのお褒めの言葉をいただきました。

在校生の皆さん（特に会場準備や片付けを担当した2年生）、大変お疲れさまでした。



先日、卒業生に配付した学校だより「けやき」15号特別号に書いたことを、在校生にも伝えます。

あす あだぎくら よわ  
**明日ありと思う心の仇 桜 夜半に嵐の吹かぬものかけ**

この歌を覚えていますか？

以前、朝会で話したことがあることですが、浄土真宗の開祖親鸞上人が詠んだ歌で、意味は「明日も咲いているだろうと思っていた桜も、夜のうちに嵐が吹いて散ってしまうかもしれない」というもので、内容としては、「普通、人は明日という日が当然あるものだと思っている。そして、つつい今日という一日を悔いの無いように過ごすことを疎かにしてしまいがちになる。」そのことを戒めている歌になります。

そう言われても、日頃から「自分には明日が来ないかもしれない」なんてことを考えながら生活している人はそうはいないと思います。でも、実際に1万人を超える人々に、7年前の2011年3月11日の明日は訪れませんでした。あの日の朝に一体どれだけの人が、あんなにも多くの命がその日に失われてしまうことを予期していたのでしょうか？15,895人の死者を出し、未だに2,539人の方が行方不明というあの災害が起こることを想像したのでしょうか？恐らく日本中の誰一人予想していなかったと思います。でも、現実になってしまいました。また、それが、再び起こらないとは誰も保証できません。

だから、皆さんには、「明日が無いかもしれない」という思いで、一日一日を大切に生きてほしいと思います。

